

RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018 Group C、Legend of Formula 1 追加出場車両が決定

株式会社モビリティランドは、2018年11月17日（土）・18日（日）に鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）で「RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINE 2018」を開催いたします。Group C、Legend of Formula 1 の追加出場車両が決定しましたので、ご案内いたします。

■ Group C (合計8台)

追加車両

NISSAN SILVIA TURBO C Nichira March83G (1983)
MCS・Guppy (1984)
TOYOTA TOM'S 85CL (1985)
ADVAN alpha Nova Porsche962C (1988)
NISSAN R90CK (1990)

発表済の車両：MAZDA 787B #202、NISSAN R91CP、
Peugeot 905

■ Legend of Formula 1 (合計10台)

追加車両

COOPER MASERATI T86 (1967)
Lotus72C (1970)
Wolf WR1 (1977)
Alfa Romeo 179C (1981)
AGS JH23 (1988)
Lotus 101 (1989)

発表済の車両：Williams FW12、Venturi LC92、
Ferrari F2005、Ferrari F10

■ Group C

NISSAN SILVIA TURBO C Nichira March83G (1983)

<解説> 1983年からスタートした全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権(JSPC)シリーズに合わせてニッサンが投入したシルビア・ターボC。1983年の鈴鹿1000kmでは星野一義が耐久王者ポルシェ956が持つコースレコードを一気に7秒以上も短縮する驚異的なタイムで予選ポールポジションを獲得するなど、存在感を見せつけた。



MCS・Guppy (1984)

<解説> 数々のレーシングカーを制作してきたムーンクラフトが1983年の全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権(JSPC)に参戦させたマシン。大パワーターボエンジンのC1クラスに対し自然吸気エンジンのC2クラスマシンだったが、1983年の鈴鹿1000kmではポルシェ956、トヨタ83CなどのC1マシン相手に総合3位に入る大健闘を見せた。



TOYOTA TOM'S 85CL (1985)

<解説> 1983年からグループCマシンによるJSPC（全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権）がスタートし、トヨタは83Cを投入。シリーズは初年度からポルシェが強く956、962Cと進化しシリーズを席巻したが、1985年トヨタは85Cを投入し5チームが参戦。ポルシェ勢と互角以上の戦いを披露した。この年はトムス、童夢チームが85C-Lでル・マン24時間レースに参戦。トムスの中嶋悟、関谷正徳、星野薫組が総合12位に食い込み、日本車として初めてのル・マン24時間完走を果たした。



ADVAN alpha Nova Porsche962C (1988)

<解説> 1983年から始まった全日本スポーツプロトタイプカー耐久選手権(JSPC)はポルシェ956、962Cが圧倒的な強さを見せシリーズを席巻。1989年は打倒ポルシェに燃えるトヨタ、日産のマシンがいよいよ反撃開始。トヨタ89C-Vが強さを見せたもののポルシェの牙城は崩せず、台風で延期となり最終戦として開催された鈴鹿1000kmを制したADVAN alpha Nova 962Cの高橋国光/スタンレー・ディケンズ組が逆転でシリーズチャンピオンを獲得した。



NISSAN R90CK (1990)

<解説> ル・マン24時間レースを含む世界スポーツプロトタイプカー選手権（WSPC）に参戦するために製作したもので、エンジンは日産製、シャーシはイギリスのローラに製作を依頼。1990年のル・マン24時間レースではヨーロッパのNME（ニッサン・モータースポーツ・ヨーロッパ）と、アメリカのNPPTI（ニッサンパフォーマンステクノロジー）から合わせて4台で参戦。そのうちの1台は日本車初のポールポジションを獲得、他の1台はレース中のファステストラップを記録した。



株式会社モビリティランド

東京オフィス 〒107-0062 東京都港区南青山1-15-9 第45興和ビル9F TEL(03)5770-6430 FAX(03)5770-6435 E-mail media@mobilityland.co.jp
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL http://www.suzukacircuit.jp/

Legend of Formula 1

COOPER MASERATI T86 (1967)

＜解説＞それまではプライベートチームにシャシーを供給していたクーパーが、1955年から本格的にF1に参戦を開始。1957年はエンジンをドライバーの後方に搭載するマシンを投入。このミッドシップレイアウトはその後F1の主流となった。1959年・60年にドライバーズ、コンストラクターズ(製造者)のダブルタイトルを獲得。1966年からマセラティのV12エンジンを搭載し、1967年はヨハン・リント、ペドロ・ロドリゲスがステラリングを握り活躍した。



Lotus72C (1970)

＜解説＞ロータスが1970年にデビューさせたF1マシン。当時フロントに配置されていたラジエーターをボディサイドに移し、ブレーキをインボード化。全体をウエッジ・シェイプ(楔形)にした革新的デザインで登場。この年マシンは72B、72Cと進化しながらヨハン・リントが4勝、エマーソン・フィッティパルディが1勝を記録する活躍を見せた。ロータス72は1977年まで活躍し、2度のドライバーズチャンピオン(1970年・72年)、3度のコンストラクターズチャンピオン(1970年・72年・73年)を獲得した。



Wolf WR1 (1977)

＜解説＞1977年F1に参戦したウルフは、その開幕戦アルゼンチンGPにウルフWR1を投入するとジョディ・シクターのドライブでデビューウインを飾った。ボディ全体が楔形のウエッジシェイプ形状でダウンフォースを稼ぎ出し、かつ軽量・コンパクトに仕上げられた名車だ。この年シクターは3勝を記録。最終戦の日本GP(富士スピードウェイ)ではスタート直後に2位に浮上し、決勝のベストラップも記録するなど速さを見せ、日本のファンの印象に残っているマシンだ。



Alfa Romeo 179C (1981)

＜解説＞1976年、チームにエンジン供給する形でF1に復帰したアルファロメオは1979年からワークスチームとして参戦。水平対向12気筒からV型12気筒エンジンに換えた179を投入。1981年にはマリオ・アンドレッティがチームに加わった。1982年にかけてアルファロメオは179C、179D、179Eと3種類のマシンを参戦させ、1981年の最終戦ラスベガスGPでアンドレッティが3位入賞。アルファロメオにF1復帰後初の表彰台をもたらせた。



AGS JH23 (1988)

＜解説＞南フランスのAGSチームは、F3、F2、F3000を経て、1986年の後半からF1に進出。その1988年用マシンがJH23。小型、低重心の優れた設計だった。ドライバーにはF2、F3000時代に同チームで活躍したフィリップ・ストレイフを起用。非力なコスワースDFZエンジンながら、カナダGPでは予選10位、決勝では一時4位を走行する速さも見せた。小規模チームゆえの信頼性の低さが弱点だったが、鈴鹿の日本GPではシーズン最高位の8位完走を果たした。



Lotus 101 (1989)

＜解説＞1988年でターボエンジンが禁止され、翌89年は3500cc NA(自然吸気)エンジンのみとなった。それまでHondaのV6ターボエンジンで戦ってきたロータスは新たに101を投入。エンジンはV型8気筒のジャッドを搭載。ドライバーは引き続き中嶋悟とネルソン・ピケを起用して戦ったが、マシンの信頼性に悩まされ両ドライバーともに思うような結果を残せなかった。日本GPではピケが予選11位、中嶋が12位からスタート。ピケは見事に4位入賞を果たしたが、中嶋は後半マシントラブルからリタイアとなった。



RICHARD MILLE SUZUKA Sound of ENGINEとは

1962年に日本初の本格的な国際レーシングコースとして開場した鈴鹿サーキットは、2012年に50周年を迎え、次の50年に向け新たなスタートをきりました。鈴鹿サーキットは、この歴史的価値を絶やすことなく維持し続けるために、モータースポーツが持つ貴重な歴史にスポットライトを当てた本ヒストリックイベントを、2015年より開催しています。

鈴鹿サーキットでのF1日本グランプリ開催以前の、ヒストリックF1マシン20台が集結し、公式レースを初開催する「**Masters Historic Formula1 in JAPAN**」、今なお伝説として語られるメーカーの威信をかけて開発されたモンスター「**Group C**」、過去の鈴鹿F1日本グランプリに出走した「**Legend of Formula 1**」、日本のモータースポーツの原点である1960年代を駆け抜けた、生粋のレーシングカー「**60's Prototype Racing Car**」たちが、時空を超えて鈴鹿サーキットに集結します。

なお、本イベントの前売チケット(大人1日券:2,500円、2日券:3,500円)は、9月23日(日・祝)より販売中です。

各チケットの特典等の詳細は、公式ウェブサイトをご確認ください。
<http://www.suzukacircuit.jp/soundofengine/>

株式会社 モビリティランド

東京オフィス 〒107-0062 東京都港区南青山1-15-9 第45興和ビル9F TEL(03)5770-6430 FAX(03)5770-6435 E-mail media@mobilityland.co.jp
 鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町7992 TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>